

# 1. 景気動向

依然として全ての業種においてD I値（好転と回答した数から悪化と回答した数を引いた値）はマイナスで推移しており、引き続き「需要の停滞」を中心に景気は停滞している。特に小売業は「需要の停滞」から「購買力の他地域への流出」が問題点のトップになっており、マイナス値も大幅に上昇し、特に厳しい状況下にある。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業		
	1~3月	4月~6月	1~3月	4月~6月	1~3月	4月~6月	1~3月	4月~6月	1~3月	4月~6月	
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	
売上高	42	74	32	27	20	50	55	45	41	27	
採算	42	58	30	23	50	10	61	42	36	32	
資金繰り	37	47	30	25	10	20	52	42	9	0	
業況	37	58	32	38	30	50	58	35	18	41	
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		購買力の他地域への流出		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		製品ニーズの変化への対応		代金回収の悪化		大型店・中型店の進出による競争の激化		人件費以外の経費の増加	
業種別 コメント	前期(10~12月期)に比べ、若干マイナス値はいずれの設問においても減少しており、わずかながら好転の兆しが見られるが、依然として公共工事削減による影響は大きく、回答企業の大半が来期は再び大幅に見通しは悪化するとしており、依然として厳しい状況が続くと思われる。		前期は一部でやや好転の兆しが見られたが、今期は全設問でマイナス30ポイント台で推移しており、「製品単価(加工)単価の低下・上昇難」を背景に売上げの伸び悩みが大きな課題となっている。来期の見通しも先行き不透明な状況が続くと予想される。		季節的要因からか前期に比べ、いずれもマイナス値は減少しているが、採算面で依然厳しいと回答している割合が高い。また、今回新たに「代金回収の悪化」が問題点の上位に上げられ、本格的な業況回復はまだ先のように予想される。		全業種の中で数値が最も悪く、一層厳しい状況が続いている。特に当面の問題として「需要の停滞」がトップであったが、今期は「購買力の他地域への流出」が問題点の上位に上げられ、極めて深刻な問題と言える。今後は、消費者ニーズに対応した地元小売店の自助努力が一層求められる。		業況はやや改善の方向にあるが、売り上げの減少が大きく、先行きは依然不透明である。景気の低迷に左右される業種が多く、飲食を中心に客単価が上昇しないことも売り上げの大きな要因になっている。しかし、来期は利益、資金繰り面で好転すると回答している企業の割合が伸びており、期待感が窺える。		

\*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

とくに好調 (50 DI)	好調 (25 DI<50)	まあまあ (0 DI<25)	不振 (25 DI<0)	きわめて不振 (DI<25)

当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。